

ニュース

みんなでつくろう！

しまやけべいせま
下宅部遺跡はっけんのもり

第77号【'07-11月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成19年11月13日

11月17日は

土器の野焼き

「はっけんのもりを育てる会」では、年に2回、4月と11月に「野焼き」を行っています。焼くのは下宅部遺跡出土の資料を手本とした土器や土偶・土笛等々。10月28日に行った「土器教室」に参加された方々の作品も一緒に焼き上げます。

日時は、11月17日土曜日。手順は以下の通りです。午前9時頃から準備を始めます。10時には焚き火の炎が上がっているでしょう。地面の水分を飛ばすために、1時間程焚き火を続けまします。同時に焚き火の回りに土器を並べ、徐々に火に近づけながら予熱を与えて、土器に残っている湿気を飛ばします。11時を目処として一旦土器を回収し、焚き火を三等分してそれぞれを



2006年4月25日の野焼き

三角形の頂点に移動させ、中央を空けます。中央に熾火が残らないようにきれいにし、今度はそこに土器を並べまします。ここで一段落。

三等分した焚き火が横に広がるように薪を加え、土器を中心とした円形の焚き火にします。この後は、薪を焚き火の内側に内側にと加えていくと、徐々に焚き火が土器に近づいていきます。頃合いを見計らって土器の上にも薪を乗せ、炎で包むように焼き上げまします。最後は自然に火力が衰え、薪が燃え尽きるのを待ちます。

ただし、完全に冷めるのを待つていると夜になってしまつので、熾火の中から土器を引き出して、土の上で冷やします。まだものすごく熱いので、触ってはいけません。土器が草とか薪に触れると、直ぐに炭化し、炭化物が黒く吸着するので気を付けましょう。皮手袋で持てるくらいになったら、水に浸して一気に冷やします。土笛や土偶など、火鉢でつかめるサイズのものは、すぐに水に浸けてもかまいません。この時に割れたことはありません。午後2時過ぎには最初の土器を回収したいものです。

数えてみると、野焼きは今回で8回目になります。過去にはほとんど全ての土器が割れてしまった時もありまし

た。失敗を重ね、それを糧とし、経験を積んできました。さてさて、今回はどういつ結果になるのか、みなさん見に来て下さい。

はっけんのもりを育てる会の活動部に「縄文土器部会」があります。毎月第1・4日曜が活動日で、ふるさと歴史館で活動しています。見学・簡単な体験はいつでもOK・熱烈歓迎です。この土器部会が中心となって、10月28日に「縄文土器教室」を開催しました。9名の参加があり、写真にあるようにすてきな作品ができました。野焼きでまたお会いできると思います。



土器教室参加者と作品

新宿御苑で

どんぐり拾い（報告）

第66回育てる会報告

「はっけんのもり」では年に数回、縄文体験の一つとして石皿を使ってドングリを磨り潰す体験をしてもらっている。何気ない作業だが、結構ハマッてしまう子も多く、大量に用意するドングリもあつという間に消費されてしまふ。ついにこの春のお誕生日会では在庫が無くなり、急遽別の目的で用意した栃の実を使わざるを得なくなった。

10月20日「はっけんのもりを育てる会」では「新宿御苑」で予定していた植物観察会の機会を利用して、御苑とその外周道路でドングリ採集を行った。雨を予想していたのが爽やかな秋晴れとなり、緑の中をわたる風も心地よく、御苑の緑は大都会の喧噪をよそに豊かにそして静かに息づいているようであった。

採集したのは「マテバシイ」と「スタジイ」。「マテバシイ」については前号で、今回の植物



植物観察会

観察会の講師を勤められた石橋さんから詳細な解説を頂いたが、その中で提案された縄文クッキーは11月3日の縄文体験塾で試食していただく予定になっている。

午後訪れたのは北区の飛鳥山にある「飛鳥山博物館」と「紙の博物館」。「飛鳥山博物館」ではお目当ての丸木舟

が館外貸し出し中で、見る（こ）とが出来ず残念。「紙の博物館」はお薦めのポイント。「渋沢記念館」は改装中で見る（こ）が出来なかったが、それでも2館を2時間掛けてじっくり見学することが出来た。

時間の合間、久し振りに渋沢庭園を覗いてみたが、庭園の隅にガラフタの様に置き捨てられていた「常憲院殿（徳川綱吉）」に奉獻された紀州家の銅灯籠も、台座の部分が整備されて少しは見られるようになっている。吉宗ゆかりの江戸庶民のお花見の地。この日も公園の中を走り回る（こ）も達の笑い声が絶えなかった。（伊藤友巳）

団栗拾いと飛鳥山博物館見学

今日は11月3日に実施する文化財ウィークの催しに行く縄文食（クッキー）の原料であったであろう団栗、中でもマテバシイ・スタジイの実を拾いに行く（こ）である。

8時、市民センター前に総員11名が揃い、バスに乗り目的地に向かって出発。天気に恵まれ、団栗拾いの絶好の日となった。



マテバシイを拾う



目的地に着き、さっそく石橋会員の案内でハマヒサカキ・ゲンノシヨウコ・イヌビワ・カシノキ（古来繊維として使用）・マテバシイ・スタジイ・ムクノキ・サンゴシユ等各種その植性等の説明・解説を聴き、お目当てのマテバシイ・スタジイの実の採取に取り掛かった。主としてマテバシイの実を拾った。今年は豊作か？一つ拾う（こ）その周りに

たくさん落ちていて、あつという間に持って行ったビール袋が一杯となつてしまったため、拾うのも終りとし、周囲を散策しながら午前中を過ごした。

昼は近くの中華料理店で美味しい食事を取り、午後の飛鳥山博物館へと向かった。

博物館では目玉の縄文遺跡より出土した丸木舟が展示されているこの事、胸踊らせ見学に行ったが、残念ながら現在他に貸し出し中この事で見学することが出来なかつた。

土地柄がそれに代わる展示としてか、当博物館のメインか？ 飛鳥劇場として、八代将軍吉宗と飛鳥山で繰り広げられた庶民との花見風景（四季）を人形劇として展示していた。

考古展示品としては、近郊より出土した遺物（鉢・石斧等）など縄文時代より近代まで歴史順に展示され

ていた。中でも縄文土器について、深鉢で前期、中期、後期と区別し互い違い棚に夫々展示してあり各期の比較ができ理解しやすかつた。博物館はこても立派な建物であつた。

続いて飛鳥山博物館に隣接する紙の博物館を見学。紙に関する製造工程・種類および和紙の産地等パネルで説明をしていた。特に身近に感じられた事は、紙スキによる和紙を作つてい



紙の博物館前でコウゾの写真を撮る

るところ（産地）に武蔵五日市の名があつたことに驚かされた。また、武蔵五日市周辺の山々を散策するとミツマタ等が見られ、それが和紙の原料木であつたことが解り、目から鱗が取れた様であつた。

はっけんのもりの植物画ギャラリー

欒

一ケヤキ

最後に団栗拾い・博物館巡りと、企画・立案し一日をいろいろと有意義に過ごさしてくださつた歴史館の方々に感謝致しております。（竹野茂樹）

はっけんのもりでは下宅部遺跡から出土した植物を育てています。



スケッチ 鈴木フミエ

雑草雑感

阿由葉著作

はっけんのもり

下宅部遺跡「はっけんのもり」が誕生して三年余が過ぎた。草木がすくすくと成長し、子供から大人までここを遊び、憩いの場とする人も多い。昨年秋には日本の歴史公園百選にも認定された。

しかしチョットでも手を抜くと木の枝は折れ、雑草が繁殖する。ふるさと歴史館指導のもとにシルバー人材の方や育てる会の有志、第四中学生ボランティア等が清掃、除草に当たっている。その一人として雑感を述べる。

雑草は、冬には枯れて影を潜め、霜の下に隠れる。初春に、芝と共に芽吹く。その姿は小さく、春風を避け「しずかなること林の如く、うづかざる」と山の如くである。初夏に至ると日に日に成長し、「成長の」はやく「風の如く、(芝生を)しんりやくする」こと火の如し「なり暑(夏を)過ぎす」。この頃の雑草取り作業は厳しい。ここで、タンボールでの滑降や川の生き物探索に専念し、逞しさを養い好奇心を培っている子供は頼もしい。芝生での飲食や勤めの行き帰りに束の間

の散策を楽しむ人等の光景にも出会う。これ等を見ると清掃を手伝う者としても嬉しい。

しかし一方、放置タンボール、放置塵も絶えない。川の石垣はかなり崩れ、稀に犬の糞にも出会う。便所は、そこでの非行や壊されたシャッターのため、当面使用不可である。大半の人が公的秩序(規律と作法)を守ってここを利用するが、一部にそのような反公的秩序の行為があるのは残念である。

雑草は、決して絶える事はない。風、火の勢いに至る前に、芽を継続して摘み取る事が望ましい。芝生を元気にするのにも良い。

反公的秩序の行為に対して、その芽が小さな内に早く、且つ継続的に摘むのが効果的である。看板や直接注意等で公的秩序意識の喚起を促している。お互いに注意しあってその維持・向上に一層の協力をいただける利用者が多くなると幸いである。注意の目は多い方が効果的であるから。

前途は厳しいものがあるが、多くの人の協力を得て「はっけんのもり」が、物理的に美しい自然体験の場、精神的に楽しく公的秩序の維持・向上の場として元気に成長する事を願う。

インフォメーション

もう忘年会のお知らせをする季節になってしまいました。12月15日の第68回育てる会は、今年の反省と来年の活動に向けての検討会議ですが、その後会場を変えて「忘年会」を行います。会員の皆さん、予定表に入れておいてください。

★

来年1月の第69回育てる会は「研修見学会」です。見学場所は現在検討中ですので、ご要望があれば「ふるさと歴史館・はっけんのもり」を育てる会担当「までご連絡ください。



育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

正会員：会費年間1200円

通信会員：会費80円切手12枚

お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで

育てる会

今後の予定

- 11月17日(土) 午前9時から 第67回育てる会「土器の野焼き」(はっけんのもり)
- 11月24日(土) 午前8時から 除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 11月25日(日) 午後1時30分から 縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 11月27日(火) 午後1時30分から 縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 12月2日(日) 午後1時30分から 縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 12月4日(火) 午後1時30分から 縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 12月5日(水) 午後7時30分から 定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 12月8日(土) 午前8時から 除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 12月11日(火) 午後1時30分から ニューズ印刷発行(ふるさと歴史館)
- 12月15日(土) 午後1時30分から 第68回育てる会「検討会議」(ふるさと歴史館)
- 12月15日(土) 午後5時から 忘年会(会場未定)
- 12月22日(土) 午前8時から 除草・清掃作業(はっけんのもり)